

雑損失の金額の計算書（令和 年度分）

台帳番号	—	—
------	---	---

フリガナ	
氏 名	
連絡先	

この計算書は、災害により住宅や家財などに被害を受け、雑損失の金額のうちに災害関連支出がある場合に使用してください。

1 損害の原因等

損害の原因		損害年月日	
-------	--	-------	--

→申告書3②「雑損控除」の「損害の原因」欄及び「損害年月日」欄に転記します。

2 災害関連支出の内訳

区分	支払先の 名称・所在地等	工事内容	支払年月日	支払金額	支払金額の内訳			A 現状回復の ための支出額 (ハ×30%＋ イ)
					イ 現状回復 のための 支出金額	ロ 資本的支 出の金額	ハ イとロの 区分が困 難な金額	
				円	円	円	円	円
合 計								

取壊し、 除去等の費用	区分	支払先の 名称・所在地等	工事内容	支払年月日	B 支払金額	【備 考】
					円	
合 計						

3 損失額の計算

区 分		住宅	家財	車両			C 合計
損 害 金 額 〔被災した住宅、家財等の損失額の計算書〕を使用し た場合には⑤、⑫、⑬の金額をそれぞれ「住宅」、 「家財」又は「車両」の欄に記入します。〕	①	円	円	円	円	円	円
原 状 回 復 の た め の 支 出 額 (2 の A 欄 の 各 区 分 ご と の 金 額)	②						
① と ② の い ず れ か 大 き い 方 の 金 額	③						
③ から 差 し 引 く 保 険 金 等 で 補 て ん さ れ る 額 (③ の 金 額 を 超 え る 場 合 は ③ の 金 額)	④	()	()	()	()	()	()
③ - ④	⑤						
原 状 回 復 に 係 る 災 害 関 連 支 出 の 金 額 (② - ①) (赤 字 の と き は 0 、 ⑤ の 金 額 を 限 度)	⑥						
取 壊 し 、 除 去 等 の 額 の 合 計 額 (2 の B 欄 の 各 区 分 ご と の 金 額)	⑦						
⑦ から 差 し 引 く 保 険 金 等 で 補 て ん さ れ る 金 額 (⑦ の 金 額 を 超 え る 場 合 は ⑦ の 金 額)	⑧	()	()	()	()	()	()
⑦ - ⑧	⑨						
災 害 関 連 支 出 の 金 額 (⑥ + ⑨)	⑩						
損 失 額 の 計 (① + ⑩)	⑪						

4 雑損失の金額（雑損控除額）の計算

区 分		損害金額等の全体	
損 害 金 額 ((③ の C) + (⑦ の C))	⑫	円	→⑫の金額を申告書3②「雑損控除」の「損害金額」欄に転記します。
保 険 金 な ど で 補 て ん さ れ る 金 額 ((④ の C) + (⑧ の C))	⑬		→⑬の金額を申告書3②「雑損控除」の「保険金などで補てんされる金額」欄に転記します。
差 引 損 失 額 (⑫ - ⑬)	⑭		
総 所 得 金 額 等 の 額	⑮		→この計算書の「書き方」をご覧ください。
⑮ × 0.1	⑯		
⑭ - ⑯	⑰	(赤字のときは0)	
差引損失額のうち災害関連支出の金額 (⑩)	⑱		→申告書3②「雑損控除」の「差引損失額のうち災害関連支出の金額」欄に転記します。
⑱ - 50,000円	⑲	(赤字のときは0)	
雑 損 失 の 金 額 (⑰ と ⑲ の い ず れ か 多 い 方 の 金 額)	⑳		→申告書3②「雑損控除」欄にて転記します。
市・府民税の雑損控除額 (⑮ と ㉑ の い ず れ か 少 な い 方 の 金 額)	㉑		→⑮に分離課税の土地建物等の譲渡所得の金額が含まれる場合には、この計算書の「書き方」をご覧ください。
翌年度以後に繰り越す雑損失の金額 (㉑ - ⑲)	㉒	(赤字のときは0)	